

Magic xpi 4.9

Release Notes



OUTPERFORM THE FUTURE™

Magic xpi 4.9 全般情報

Magic xpi 4.9 の紹介

Magic Software の Magic xpi インテグレーション プラットフォームの新しいメジャーリリースをお届けします。新機能および拡張された機能を使用することで、新しいロック アンド フィールドでユーザエクスペリエンスを向上させるとともに、容易にインテグレーション プロジェクトに機能を追加することができます。

Magic xpi 4.9 では Magic xpa 3.2 が使用されています。

Magic xpi 4.7 から Magic xpi 4.9 へのマイグレーション

Magic xpi 4.7 で作成されたプロジェクトは自動的にアップグレードします。Magic xpi 4.7 で作成したプロジェクトをフォルダごと Magic xpi 4.9 のプロジェクト フォルダにコピーし、Magic xpi 4.9 の Magic xpi スタジオでプロジェクトを開いてください。

Magic xpi 4.6 から Magic xpi 4.9 へのマイグレーション

Magic xpi 4.6 で作成されたプロジェクトは自動的にアップグレードします。Magic xpi 4.6 で作成したプロジェクトをフォルダごと Magic xpi 4.9 のプロジェクト フォルダにコピーし、Magic xpi 4.9 の Magic xpi スタジオでプロジェクトを開いてください。

Magic xpi 4.1 から Magic xpi 4.9 へのマイグレーション

既存の.ibs ファイルを開くと、マイグレーション ウィザードが自動実行されます。

注:プロジェクトのオブジェクト名がロケールの言語（ドイツ語のフロー名や変数名など）である場合、マシンのロケールは、マイグレーションを実行するときにプロジェクトで使用されるロケールと一致させる必要があります。さらに、**magic.ini** ファイルの[**MAGIC_ENV**] **ExternalCodePage** フラグも、使用されているロケールと一致する必要があります(日本語は 932)。

jBOLTV3.0 、 V3.2、 Magic xpi 3.4 から Magic xpi 4.9 へのアップグレード

jBOLT V3.0x、V3.2x、Magic xpi 3.4 で作成されたプロジェクトは自動的にアップグレードします。jBOLT V3.0x、V3.2x、Magic xpi 3.4 で作成したプロジェクトをフォルダごと Magic xpi 4.9 のプロジェクト フォルダにコピーし、Magic xpi 4.9 の Magic xpi スタジオでプロジェクトを開いてください。

マイグレーション後に必要な手順

- uniPaaS で作成された uniPaaS のステップとコンポーネント SDK のステップは、**Magic xpa に手動で移行する必要があります。**
- Web サービスサーバは、移行後に手動で**再設定する**必要があります。
- 外部ファイルは、旧プロジェクトの階層に従い、新しいプロジェクトでの所定の場所にコピーする必要があります。

- マイグレーション プロセスでは、.ini ファイルおよびその値は変更されません。新しい値を使用するには、マイグレーション後に古い **ifs.ini** ファイルを削除 or 名前を変更して、プロジェクトをビルドし直します。新たな **ifs.ini** ファイルが新しい値で作成されます。
- Magic.ini ファイル(ifs.ini ファイルではない)に論理名が定義されている場合は、プロジェクトをマイグレーションする時に論理名(環境変数)を **Magic.ini** ファイルまたは **ifs.ini** ファイルに追加します。環境変数がプロジェクト固有のものである場合は、それらをプロジェクトの **ifs.ini** ファイルに追加します。プロジェクト固有でない環境変数の場合は、**Magic.ini** ファイルに設定します。Magic xpi 4.9 はプロジェクトの中心です。つまり、スタジオは **ifs.ini** ファイルから環境変数を読み込みます。
- フロー起動(Invoke Flow)ユーティリティ内でハードコード ID を含む式が使用されている場合、マイグレーション時にこれらの ID が変更される可能性があります。そのため、マイグレーション プロセス後に ID が正しいものを指していない可能性があります。実行時にフローまたはビジネスプロセス名に基づいて ID を計算する **GetFlowID** や **GetBPID** などの専用関数を使用することをお勧めします。
- **SpecialExpReturnNull** フラグがマイグレーション後のプロジェクトの **ifs.ini** ファイルにまだ存在しない場合は、そのファイルの**[MAGIC_SPECIALS]**セクションに追加し、**Y** に設定して以前のバージョンの Magic xpi または iBOLT で作成されたプロジェクトとの下位互換性を維持する必要があります。このフラグは、Null 値を持つ変数と空の値を比較するときの下位互換性を維持します。
- マイグレーションしたプロジェクトにユーザ定義コンポーネントが含まれている場合は、それらのフォルダを元の場所から新しい場所にコピーする必要があります。ユーザ定義コンポーネントが使用している **Resource_types.xml** ファイルと **Service_types.xml** ファイルの変更はすべて手動で行う必要があります。
- JD Edwards World リソース定義は定義が存在しない場合、ライブラリで更新する必要があります。

- JD Edwards Enterprise One の設定が簡素化され、専用のクラスローダーが使用できるようになりました。**Magic.ini** classpath に全ての jar ファイルを記載する必要はなくなりました。クラスローダーを使用する場合は、**jar** フォルダから **j2ee1_3.jar** を削除してください。具体的な手順については、*Magic xpi* ヘルプの **JD Edwards Enterprise One コネクタの設定**を参照してください。
- Salesforce メタデータ API に大きな変更があったため、メタデータ CRUD メソッドの**更新**および**削除**オペレーションを再構成する必要があります。

ライセンスング

Magic xpi 4.9 を使用するには、バージョン 4.x のライセンスを取得する必要があります。Magic xpi ライセンスを取得するには、お近くの Magic Software 担当者にお問い合わせください。

前提条件の変更

.NET フレームワーク

Magic xpi スタジオの各モジュールは.NET Framework で開発されています。以下の.NET Framework が必要です。:

- Magic xpi スタジオを使用してアプリケーションを開発するには、お使いのマシンに.NET Framework V4.0(または以降)がインストールされている必要があります。
- 実行時、Magic xpi インメモリ データ グリッドリクエストには.NET Framework V4.0 (または以降)が必要です。

スタジオのインストール

Magic xpi スタジオは、Microsoft Visual Studio で開発されています。Microsoft Visual Studio は、ネットワークフォルダから起動できません。したがって、ネットワークフォルダから Magic xpi スタジオを起動することはできません。

内部データベースの変更

内部データベースへの書込と読取は Magic xpa データベース ゲートウェイではなく、JDBC で行われます。Magic xpi は MSSQL データベースの JDBC ドライバ(JAR ファイル)を提供します。他のデータベースを使用するには:

1. JDBC ドライバを以下のフォルダにコピーします。:
<Magic xpi 4.9>%Runtime%java%DatabaseDrivers
2. 使用する DBMS と一致するよう **Runtime%config%datasource.xml** ファイルのデータベース設定を行います。**datasource.xml** で定義されている **driverClassName** が JDBC ドライバと互換性があることを確認します。

新機能、強化された機能および動作の変更

REST Client

- ・ REST クライアントコンポーネントが利用可能になりました。クライアントとして REST API を利用することができます。
- ・ REST の Path パラメータを追加または削除し、クエリパラメータ、ヘッダパラメータ、およびリクエスト/レスポンスパラメータを定義できます。
- ・ HTTP-Basic、HTTP-Digest、および OAuth2 認証をサポートしています。
- ・ さまざまなコンテンツタイプを設定し、添付ファイルを送受信することもできます。
- ・ REST サービスの Get、Post、Put、Patch、Head、Delete の各オペレーションを呼び出すことができます。

データマップのカスタムエンコーディング (EBCDIC) のサポート

データマップの送り元と送り先には、フラットファイルのカスタム (EBCDIC) エンコーディングを設定する機能が追加されました。エンコーディングが[カスタム]に設定されている場合は、[コードページ]の値を選択する必要があります。

ファイル管理のカスタムエンコーディング (EBCDIC) のサポート

ファイル管理コンポーネントは、Append Blob to File, Create File, and Write File のメソッドでカスタム (EBCDIC) エンコーディングをサポートするようになりました。エンコーディングが[カスタム]に設定されている場合は、[コードページ]の値を選択する必要があります。

EBCDIC 変換関数

UnicodeToCustomCodePage 関数と UnicodeFromCustomCodePage が、関数のリストに追加されました。。

OData アダプタの認証サポート

OData アダプタは、基本認証、ダイジェスト認証、および Windows (NTLM) 認証をサポートするようになりました。

OData アダプタのディープインサートのサポート

OData アダプタは、関連エンティティを使用してエンティティを作成するためのペイロードの生成をサポートしています。これにより、OData サービスへのディープインサートコールが可能になりました。

OData アダプタのディープインサートペイロードのサポート

OData トリガは、リクエストに含まれるディープインサートペイロードの処理をサポートするようになりました。

OData トリガのメタデータのインポートのサポート

OData トリガは、既存のサービスメタデータ (OData V4) をファイルからロードし、ロードされたメタデータで定義されているものと同様の OData インターフェイスを公開できます。

XML 位置転送

XML 位置転送は、呼び出されたフローの中で、親要素の直接の非複合型の子要素を呼び出すために使用してはいけません。直接非複合型の子要素は、そのフローのフロー変数で作成することで使用できます。呼び出し側のフローは、子フローを呼ぶ場合、直接の非複合型子要素をそのフローのフロー変数にマップする必要があります。詳細の手順については、Magic xpi ヘルプの XML 位置転送トピックを参照してください。

Sugar リソースでのプラットフォームのサポート

ユーザは Sugar の承認済みプラットフォーム値をリソースで指定できるようになりました。

SugarCRM V11.x REST API サポート

SugarCRM V11.x REST API と互換性があることを検証しました。

SAP B1 トリガ用テーブルをカンパニーデータベースから独立

SAP B1 アダプタは、トリガ用のテーブルをカンパニーデータベースとは異なるデータベースでサポートするようになりました。トリガ用テーブルを保持しているデータベースがカンパニーデータベースとは異なるサーバでホストされている場合は、そのサーバをリンクサーバにする必要があります。

カンパニーデータベース内のストアードプロシージャの実装方法変更

ストアードプロシージャ `ibolt_notification` および `ibolt_trigger` テーブルは、SAP B1 カンパニーデータベースでは使用されなくなりました。もしこれらのストアードプロシージャやテーブルが存在する場合、それらを削除する必要があります。

SAP B1 のタイムシートサービスのサポート

SAP B1 アダプタのサービスオブジェクトのリストに タイムシートサービスが追加されました。

SAP B1 の ProfitCenter サービスサポート

SAP B1 アダプタのサービスオブジェクトのリストに ProfitCenter サービスが追加されました。

Magic Monitor の Web サーバの場所の変更

Magic Monitor Display Server の Web サーバの場所は、システムプロパティの WEB_SERVER_LOCATION を使用して変更できるようになりました。

Dynamics CRM コネクタのロギングを Log4net でサポート

DynamicsCRM コネクタは、開発時および実行時に専用のログ記録サポートを提供するようになりました。

ServerData オブジェクトのロードをリトライ

Magic xpi エンジン、Magic Space から ServerData オブジェクトのロードを再試行するための設定をすることができます。再試行回数は、Magic.ini ファイルの [MAGICXPI_GS]セクションで、フラグ CheckServerEntryInspaceRetrytimes で設定します。

Magic xpi デバッガでのプロキシサポート

デバッガでは、プロキシサーバを介して接続できるようになりました。システムプロキシサーバ（Internet Explorer で構成されている）とカスタムプロキシサーバ（デバッガ専用スタジオで構成されている）の両方がサポートされています。

SharePoint アダプタのプロキシサポート

SharePoint アダプタは、オンプレミスおよびオンデマンドの SharePoint アプリケーションに対して、プロキシサーバを介してアクセスできるようになりました。

Exchange アダプタのプロキシサポート

Exchange アダプタは、プロキシサーバを介してアクセスできるようになりました。

WCF クライアントのオペレーション毎の Fault スキーマの変更

WCF クライアントは、Fault スキーマがオペレーション用に定義された場合、各オペレーション毎にカスタム Fault スキーマを生成することができるようになりました。

カスタム SOAP ヘッダ のサポート

WCF コネクタは、ユーザ定義されたカスタム SOAP ヘッダの定義と抽出をサポートするようになりました。

ログテーブルのインデックス追加

アクティビティログテーブルにインデックスが追加されました。これは、UpdateTable1.sql という名前の SQL スクリプトファイルの一部として追加されます。この SQL スクリプトは、database type フォルダの下にインストールされます。

インストール時の DB 作成中に「即時」としてオプションを選択した場合にのみ、インデックスは追加されます。DB 作成が「後で」として選択されている場合は、インストール後に手動でスクリプトを実行する必要があります。

MgMirror のプロセッシングユニットの最適化

MgMirror プロセッシングユニットサービスは、MAGIC_INFO Space からアクティブログにデータを複製するように最適化されています。

デバッガのオンプレミスインストール

Magic xpi は、Tomcat サーバ上でホストされるデバッガのオンプレミスインストールを構成するために、Magic xpi 4.9 Debugger という名前の追加サービスを提供します。

データマップの UPSERT のサポート

データマップの送り先にデータベースが指定されている場合、UPSERT オペレーションがサポートされるようになりました。UPSERT ステートメントは、データベーススキーマプロパティの[プロパティ]ウィンドウで[UPSERT]を[Yes]に設定することで有効にできます。この機能は Oracle と MS-SQL のみサポートされています。

データマップの Undo/Redo のサポート

データマップは、スキーマ、接続、およびプロパティ（スキーマとノードの両方）の変更、および色の変更のための[Undo]および[Redo]アクションをサポートします。

コマンドラインの戻り値をサポート

ファイル管理コンポーネントの CommandLine メソッドは、バッチファイルの戻り値/Exit コードをサポートします。この機能は Windows ベースのプラットフォームでのみ利用可能で、Timeout パラメータは 0 に設定されています。

フロー呼出コンポーネントでのフローリストを昇順表示

フロー呼出コンポーネントでは、呼び出すフローのリストを表示する際、リストが昇順で表示されます。

クラウドサポート

本機能は日本ではサポートされません

- Magic xpi では、AWS 上で EC2 インスタンスとして構成されたプロジェクトを Cloud 上にデプロイし、その上に Magic xpi Linux サーバ環境をインストールすることができます。
- ユーザはクラウドタイプのプロジェクトを作成できるようになりました。また、プロジェクトタイプをオンプレミスからクラウドに、またはその逆に変換することもできます。
- 新しいクラウドメニューがスタジオに追加されました。これにより、Studio ユーザはプロジェクトをクラウドに保存し、クラウドからダウンロードしてクラウドから削除することができます。ユーザは正常に構築されたプロジェクトをクラウドにデプロイできます。
- Debugger は、クラウドにデプロイされたプロジェクトおよびオンプレミスプロジェクトをいくつかの追加設定でデバッグするように拡張されました。
- また、Magic Monitor はクラウド上のプロジェクトで動作するように調整されています。

現在サポートされていない機能

関数 RqHTTPHeader はサポートされなくなりました。Request Header パラメータを取得するには、関数 getParam を使用します。HTTP トリガーを使用する場合は、FlowData で setHTTPHeaders 関数を使用して、レスポンス HTTP ヘッダを設定する必要があります。

既知の問題 と使用上の制約

Magic xpi の現行バージョンの既知の問題と使用上の制約は以下の通りです:

Magic xpi インストール

- Magic xpi をスペースを含むフォルダにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にし ておかなければなりません。詳細は*Magic xpi* インストール ション ガイドを参照してください。
- Magic xpi 4.9は同一筐体のコンピュータに過去バージョンとの複数インストールを行うことはでき ません。Magic xpi 4.9をインストールするコンピュータに 過去バージョンがインストールされていないことを必ず確認してください。過 去バージョン(Magic xpi 4.6、4.7)がインストールされている場合、インスト ーラはMagic xpi 4.9で過去バージョンフォルダー内を上書きし、Magic xpi 4.9をインストールします。
- Magic xpi 4.9をインストールするユーザおよび起動するユーザはインストール するコンピュ ーターに対するAdministrator権限が必要です (Administrators グループに所属する必要がありま す) 。
- 内部データベースとして MSSQL を使用する場合、Magic xpi4.7 のインストー ル後、「**SQL Server 20XX 構成マネージャー**」を使用して以下の設定を行わ なければなりません。
 - SQL Server ネットワークの構成 : **TCP/IP** を**有効**にします
 - TCP/IP のプロパティ画面 : IP アドレスタブ内の **IPAll** に TCP ポートと して **1433** を設定します。

Magic xpi 動作全般

- Magic xpi 4.9 では、変数名の長さは 30 桁までです。しかしながら Magic xpi 4.7 は変数に接頭辞として F.、C.、G. を自動的に付与します。ゆえに変数名 の実質的な最大長は 28 桁となります。

- プロジェクトを jBOLT V3.0x および V3.2x、Magic xpi 3.4、Magic xpi4.1 から Magic xpi 4.9 に直接にアップグレードした場合、リソース内に指定した各パースワードは再定義する必要があります。

- **Magic.ini** ファイル内 [**MAGIC_SPECIALS**]セクションの

SpecialAnsiExpression=フラグの値で、文字列の扱い方が変わります。

- **SpecialAnsiExpression=Y** の場合 : 日本語文字列をバイト単位で取り扱います。
- **SpecialAnsiExpression=N** の場合 : 日本語文字列を文字単位で取り扱います。

従って、UNICODE 文字を使用する場合は、必ず

「**SpecialAnsiExpression=N**」と設定してください。

「**SpecialAnsiExpression=Y**」と設定した場合、文字化けを起こす場合があります。

インストール時のデフォルト設定は「**SpecialAnsiExpression=N**」となっています。

プロジェクトのマイグレーション時には、この点に注意が必要です。

Magic jBOLT V3.0、3.2 のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=N**

Magic xpi 3.4 のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=Y**

Magic xpi 4.1、4.6、4.7 のデフォルト設定は : **SpecialAnsiExpression=N**

となっている点にご注意ください。

このフラグの値により、文字列操作関数の結果も異なります。たとえば、Len() 関数の場合 :

SpecialAnsiExpression=N の時 : Len('あいうえお')は 5 (5 文字)

SpecialAnsiExpression=Y の時 : Len('あいうえお')は 10 (10 バイト) を返します。

SpecialAnsiExpression の設定値で動作に影響がある関数は以下の通りです。

InStr()	Len()	MID()	MIDV()	Right()	Left()	StrToken()
StrTokenCnt()	StrTokenIdx()	Del()	Fill()	Ins()	Rep()	RepV()

- .NET Utility で作成した .NET Framework 対応プログラムを含むプロジェクトを実行した際、以下のエラーが発生する場合があります。

**Error in .NET invocation:IFC1.IFC1 Code:2140930047 Set
Property:iBOLTFramework.dll location**

このエラーが発生した際は Iboltinvoker.dll ファイルをレジストリから一旦削除し、以下のコマンドでレジストリに再登録してください。:

'RegAsm iboltinvoker.dll /tlb:iboltinvoker.tlb'

- スタジオは **Magic.ini** ファイルの **classpath** を読み込みません。代わりに、OS 環境変数の **classpath** に jar ファイルを指定するか、jar ファイルを **runtime¥java¥lib** フォルダにコピーする必要があります。
- Magic xpi はバージョン管理を行うバージョン管理ソフトウェアをサポートしています。プロジェクトツリーが変更された場合は、バージョンコントロールプロバイダのエクスプローラを使用してプロジェクト全体を取得する必要があります。
- フローを一時停止に設定しても、フローは自動的にチェックアウトされません。
- **エディタで開く** コンテキストメニューオプションはマップファイルではサポートされません。
- Notes DB リソースの**ホスト名**プロパティでは環境変数は使用できません。
- **resources.xml** ファイルと **services.xml** ファイルがプロジェクト フォルダ内に存在する場合、スタンドアロン エディタはリソースとサービスの編集のみ行うことができます。
- 数値の場合、ノード特性(データマッパー)の**書式**プロパティには N12.4 のように、数値、小数点、マイナスを表す N のみ指定することができます。
- **入力値**パラメータにスペースを含む文字列が設定されている場合、**検証**コンポーネントの **Empty Field** メソッドは False 値を返します。
- プロジェクトを Magic xpi 4.9 にマイグレーションする前に、データマッパーで使用する全ての XSD ファイルが所定の場所で使用可能であることを確認してください。
- パーセント記号 (%) は、データベース リソースのパスワードでは使用できません。

- アップグレードされた Magic xpi 4.9 プロジェクトでは、既存の SAPB1 リソースを変更して SAP HANA データベースを使用することはできません。SAP HANA データベースを使用するには、新しい SAPB1 リソースを作成する必要があります。
- 旧バージョンの Magic xpi に対して Magic xpi 4.9 をアップグレードする場合、Magic xpi スタジオのインストールフォルダ内の **FunctionDescription.en.xml** または **FunctionDescription.ja-JP.xml** を上書きします。ファイル内のデータが失われないようにするには、Magic xpi 4.9 をインストールする前にファイルのバックアップを作成し、Magic xpi 4.9 をインストールした後に修正内容をマージする必要があります。
- 一部日本語表示されない画面、メッセージがあります。
- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能 x64 がインストールされていない場合、.Net/IIS Web リクエストは正しく動作しません。（特に OS のクリーンインストール後は注意する必要があります）

プロジェクトのマイグレーション

- 旧バージョンからマイグレーションをしたプロジェクトを保存する際、ソリューションファイル(*.sln)ファイルの保存先として、**<Magic xpi プロジェクト フォルダ>¥<プロジェクト名>¥<プロジェクト名>¥<プロジェクト名>.sln** がデフォルト保存先として表示されますが、このフォルダには保存せず、**<Magic xpi プロジェクト フォルダ>¥<プロジェクト名>¥<プロジェクト名>.sln** として必ず保存してください。

Magic モニタ

- Magic モニタは使用できる Web ブラウザとして Internet Explorer 11 のみをサポートします。他の Web ブラウザはサポートされません。
- Magic Monitor のパスワードがすべて数値で構成されている場合、パスワードの長さは 6 文字以上である必要があります。英数字で構成されている場合はこの制約は適用されません。

Google Calendar コンポーネント

- ユーザアクセス制御権限を参照する場合、Google Calendar™ からは以下の値が返されます。 : **freeBusyReader, reader, writer, owner**
- Google Calendar コンポーネントは Google Calendar™ から存在しないユーザのアクセス権を取り消そうとした場合、エラーを返しません。

Salesforce コンポーネント

- Salesforce コネクタは Proxy(プロキシ)の認証が基本認証のみの場合は動作しません。
- Salesforce Lightning Experience インターフェイスを使用している場合、アラートレポートは結果を返さず、「この開発者名は無効です。チャートを含むレポートの開発者名を入力してください」というエラーが表示されます。

データマッパー

- 適切な変換が行われない限り、Unicode データは Base64 としてエンコードされた XML ノードにマップすることはできません。
- データマッパーでデータベースにアクセスする際、select、delete、update 文で where 句を使用する場合、文字列項目の前後に必ず「'(シングルコーテーション)」を付与する必要があります。

<例> update 社員マスタ set 住所='神奈川県' where 社員 ID='<?C.UserString?>'
- jBOLT V3.2 では、データマッパーの送り先に変数 (Variables) を設定し、送り先の文字型変数に半角空白かブランクを計算値として入力した場合、結果として文字型変数には NULL が設定されていました。Magic xpi 4.9 で同様の動作をさせた場合、文字型変数にはブランクがセットされます。
- データベース名、テーブル名、列名に**環境依存文字**が使用されている場合、データマッパーおよび SQL ウィザードでは一覧にテーブル名等が**表示されません**。
- ODBC 接続は Windows プラットフォーム上の DBMS に対する接続がサポートされます。Windows プラットフォーム以外の DBMS に対する ODBC 接続はサポートされません。
- Magic xpi 4.9 は Oracle、MSSQL、DB2、DB2/400 に対しては専用の接続モジュールにより接続、動作を行います。ODBC での接続およびその動作は DBMS ベンダー等が提供する ODBC ドライバに依存します。ODBC 接続を行う際は事前の検証が必要な場合があります。
- 互換性のないバージョンの Postgre ODBC Database Driver がシステムにインストールされていると、Magic xpi は PostgreSQL Database 用の ODBC 接続を作成できません。

この問題を解決するには、Magic xpi と互換性のある 09.03.0400 または 10.00 バージョンの Postgre ODBC データベースドライバをインストールしてください。
- CallPublic 関数への入力値として Data Mapper ソースノードを渡すと、引数によって予期しない応答が発生します。

- XML 位置転送で、呼び出されたフローの直接の非複合型子要素にアクセスする場合、チェッカーがこのマッピングを誤ったマッピングとして捉えることができないため、意図しない動作になる場合があります。

Web サービス コンポーネント

- マイグレーションユーティリティでは Web Service トリガーの情報が正常に移行されないため、Magic xpi 4.9 で再度設定して頂く必要があります。
- フロー内で Web Service を使用する際(WebService トリガー(Provider)および Web Service Client とともに) XML を作成する際は必ずエンコードを UTF-16 に設定する必要があります。
- Web サービスのサービス定義画面で、オペレーションおよびアタッチメントの引数名に日本語を使用することはできません。
- Web サービスのネームスペースについて
サービスリポジトリで Webservice のサービスを定義する際、「管理」ダイアログで「Generate(生成)」ボタンを押すと、WSDL ファイルを作成します。この時、ネームスペースのドメイン名にハイフン "-" が含まれていると、WSDL の作成に失敗します。その場合はハイフンを削除するか、下線 "_" などに置き換えてください。また、使用できる文字列は英大小文字及び数字ですが、ドメイン名を数字で始まることはできません。その他 if や null などの言語系で使用される予約語も使用できません。

IBM i サーバ関連

- Magic xpi 4.9 のデータマッパーおよび IBM i コネクタがサポートしている IBM i OS バージョンは **V5R4** 以降です。
- Magic xpi 4.9 でデータマッパーおよび IBM i コネクタを使用するには IBM i に Host Library のインストール/設定が必要です。インストールおよび設定については Help フォルダ内「Magic xpi 4.9-DB2400.pdf」を参照してください。

- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 を使用する場合、ウィザードで SQL 文を生成すると分離レベルとして「WITH NC」が付加されます。この場合、フロー特性・データマッパー構成のトランザクション設定は挿入時のみ有効になります。更新・削除時にトランザクション処理を行う場合には「WITH NC」を削除してください。
- データマッパーの送り先で IBM i 上の DB2/400 上のジャーナルの存在しないテーブルに対して更新・削除を行う場合、分離レベルとして「WITH NC」が指定されている必要があります。
ジャーナルの存在しないテーブルを扱う場合にはフロー特性およびデータマッパー構成のトランザクション設定は無視されます。
- IBM i 上の DB2/400 の DBCS 専用/混用/択一フィールドに対し DBCS 文字列で更新を行う場合、シフトイン・シフトアウトコードの付加により桁数がオーバーした場合にはエラーになります。
- IBM i データタイプの浮動小数点数型(FLOAT 型)はサポートされません。
- 複数の IBM i システムを利用する場合、異なる名前のホストライブラリを複数同時に利用することはできません。すべての IBM i システムのホストライブラリが同じ名前である必要があります。
- IBM i コネクタのメソッド「Run Query」を使用する際、「クエリ名」欄には「ライブラリ名/クエリ名」の順序で指定してください。同様に、「クエリファイル」欄には"ライブラリ名/クエリファイル名"の順序で指定してください。ヘルプファイルにはそれらの順序が逆の指定になっているので、注意が必要です。また、同メソッドの「出カタイプ」欄に、パラメータ「*DISPLAY」の値は有効ではありません。指定しても System i(IBM i) 側では Run Query は実行されません。
- Magic xpi 4.9 が IBM i に接続する際、IBM i 側ユーザプロフィールの CCSID は 5035 にしてください。それに合わせて、Magic xpi 4.9 側 MAGIC.INI の [MAGIC_DBMS] の DBCS パラメータ設定は以下のように設定してください。

DBCS=IBM-943:IBM-5035

IBM i コネクタでデータキューの送受信を行う場合（Send data to Queue、Receive Queue Data、及びトリガー使用時）、キューのデータ長は実際の長さよりも余裕を持たせてください。十分な長さが無い場合、文字化けをすることがあります。

Notes サーバ関連

- Domino および NotesDB コンポーネントをトリガーとして使用することはできません。

Excel/Word コンポーネント

- サーバ OS では WindowsServer2008 以降の OS において、セキュリティ対策の一環として、セッション 0 の分離の対応がなされています。

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/dd871151.aspx>

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/aa480152.aspx#EGFAE>

このセッション 0 の分離の影響により、「Magic xpi 4.7 GSA」 サービス経由 (Windows のサービス) で起動された Magic xpi サーバでは、Microsoft Excel コンポーネントや Microsoft Word コンポーネントを利用した、Office 連携処理が動作しないことが確認されました。

この問題に対処するには、「Magic xpi 4.9 GSA」 サービスを Windows のサービスではなく、以下のバッチファイルを手動で起動することで対処します。

<magic xpi>% Runtime%Gigaspace%bin%magicxpi-gs-agent.bat

このバッチファイルを起動するには、Windows サーバに Administrator 権限を持ったユーザでログインする必要があります。起動した状態で Windows サーバからログオフすると、全 Magic xpi プロセスが停止してしまうのでご注意ください。

SharePoint コンポーネント

- SharePoint Online(office365 認証)でユーザサイトを作成した場合、リソース設定の「Site」欄に、作成したユーザサイト名を記述する必要があります。その際、作成したサイトの日本語名を設定するのではなく、URL のユーザサイト部分（半角英数文字）を設定してください。
(例日本語サイト名：チームサイト → URL 内ユーザサイト部分：TeamSite)
- SharePoint Online コンポーネントはレコードサイズ(ドキュメントとフォルダを含む)が 5,000 を超えると、リスト、ライブラリ、フォルダに対してのクエリに失敗する場合があります。

File 管理コンポーネント

- ファイル管理コンポーネントのコマンドラインで実行ファイルを指定する場合、ファイルパスに空白が含まれていると、正しく動作しないことがあります。

FileArchive コンポーネント

- File Archive コンポーネントでは ファイル名に「(」、「)」が含まれている場合、正しく動作しません。その際はワイルドカードの「?」を指定してください。
- File Archive コンポーネントではファイルパス、ファイル名(接頭辞を含む)に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。

FileSplitter コンポーネント

- File Splitter コンポーネントでは ファイル名に「(」、「)」が含まれている場合、正しく動作しません。
- File Splitter コンポーネントではファイルパス、ファイル名に日本語が使用されている場合、日本語が文字化けします。

FTP コンポーネント

- FTP コンポーネントにおいて、ファイル名およびフォルダ名(ローカル/サーバ共に)を指定する際、**環境依存文字**は使用できません。

SAP R3/A1 コネクタ

- SAP R3/A1 コネクタの使用時、以下のような Java Runtime エラーが発生する場合があります。

java.lang.UnsatisfiedLinkError: C:\¥Magicxpi4.9¥Studio¥sapjco3.dll: このアプリケーションの構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションを再度インストールすることにより問題が解決する場合があります。

```
at java.lang.ClassLoader$NativeLibrary.load(Native Method)
at java.lang.ClassLoader.loadLibrary0(ClassLoader.java:1803)
at java.lang.ClassLoader.loadLibrary(ClassLoader.java:1728)
at java.lang.Runtime.loadLibrary0(Runtime.java:823)
at java.lang.System.loadLibrary(System.java:1028)
at com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.loadLibrary(DefaultJCoRuntime.java:443)
at
com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.registerNativeMethods(DefaultJCoRuntime.java:309)
at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntime.registerNatives(JCoRuntime.java:1030)
at com.sap.conn.rfc.driver.CpicDriver.<clinit>(CpicDriver.java:956)
at com.sap.conn.rfc.engine.DefaultRfcRuntime.getVersion(DefaultRfcRuntime.java:43)
at com.sap.conn.rfc.api.RfcApi.RfcGetVersion(RfcApi.java:261)
at com.sap.conn.jco.rt.MiddlewareJavaRfc.<clinit>(MiddlewareJavaRfc.java:200)
at com.sap.conn.jco.rt.DefaultJCoRuntime.initialize(DefaultJCoRuntime.java:74)
at com.sap.conn.jco.rt.JCoRuntimeFactory.<clinit>(JCoRuntimeFactory.java:23)
at com.sap.conn.jco.rt.RuntimeEnvironment.<init>(RuntimeEnvironment.java:42)
at sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance0(Native Method)
at
```

```
sun.reflect.NativeConstructorAccessorImpl.newInstance(NativeConstructorAccessorImpl.java:39)
at
sun.reflect.DelegatingConstructorAccessorImpl.newInstance(DelegatingConstructorAccesso
o21rImpl.java:27)
at java.lang.reflect.Constructor.newInstance(Constructor.java:513)
at java.lang.Class.newInstance0(Class.java:355)
at java.lang.Class.newInstance(Class.java:308)
at com.sap.conn.jco.ext.Environment.getInstance(Environment.java:125)
at
com.sap.conn.jco.ext.Environment.registerDestinationDataProvider(Environment.java:22
0)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.register(Unknown Source)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBConnection.<init>(Unknown Source)
at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBSapR3.<init>(Unknown Source)
```

このエラーが発生した場合、以下の URL より「Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラム」を取得し、インストールする必要があります。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=14431>

DynamicsAX コネクタ

- DynamicsAX コネクタを使用するには、Magic xpi をインストールするコンピュータに以下を予めインストールしておく必要があります。NET CLR(Common Language Runtime : 共通言語ランタイム)が 2.0 である必要があります。
 - Windows7 の場合
 - (1) .NET Framework2.0、3.0、3.5 のいずれか
 - (2) .NET Framework4.0 あるいは 4.5
 - (3) Windows SDK 7(Magic xpi スタジオを使用する場合 :
.NET Framework4.0 の時)
 - (4) Windows SDK 8(Magic xpi スタジオを使用する場合 :
.NET Framework4.5 の時)

- Windows8、10、Windows Server 2012、2012R2 の場合
 - (1) .NET Framework2.0、3.0、3.5 のいずれか
 - (2) .NET Framework4.5
 - (3) Windows SDK 8(Magic xpi スタジオを使用する場合)

XSLT コンポーネント

- XSLT スタイルシートに日本語が含まれる場合、正しく変換されず、文字化けをおこします。

ディレクトリスキャナー コンポーネント

- ディレクトリスキャナー コンポーネントをトリガーとして使用する際、マスク欄に日本語を使用することはできません。

HTTP フレームワーク設定

- HttpFramework は Magic.ini ファイル内に定義されていますが、デフォルト値は **D**(.NetFramework)で、この値を変更すると HTTP コンポーネントが正しく動作しない場合があります。

UDS

- UDS 使用時、デバッグ時に UDS 定義内の Blob 項目の内容をコンテキストビューから表示する際、文字化けすることがあります。

コネクタビルダー

- コネクタビルダーは以下の OS での使用時のみサポートされます。

Windows® 7

Windows® 8

Windows® 10

OData コンポーネント

- OData サービスは、別の複合型プロパティを含む複合型プロパティとしてのエンティティプロパティの定義をサポートしていません。
- OData プロバイダは、Geography Collection 型に対する 1 回の呼び出しで複数のデータ型を送信することをサポートしていません。



過去のリリースノート

PastReleaseNotes.pdf ファイルを参照してください。

修正された問題

QCR #	Description
143184	In the Data Mapper, an XML destination's output variable contained incorrect names for replicated nodes.
146509	When the internal database was of type MSSQL or Oracle, the Magic monitor failed to retrieve records and threw an error, "No display name specified" for a specific project having more than millions of records in the Activity Log.
147282	The SQL insert statement constructed using the Data Mapper utility failed to parse when the columns had round bracket character in the name.
147350	The DB Disconnect property failed to close the connection and kept it open in inactive status when the database was used at the source side.
147450	The Email component failed to retain the CR/LF formatting of the body blob while receiving the e-mail.
147459	The IDOCs from the SAP R3 triggers, in some rare cases, were lost without processing and failed to return an acknowledgement, and thus resulted in an error message "Character reference '####' is an invalid XML character".

QCR #	Description
147521	The SAPB1 trigger failed to recover after the unexpected crash of the Database.
147541	When using MySQL as a Magic xpi internal database with huge records for activity logs, the Magic Monitor failed to open the blob, and threw an error.
147660	When working with a Magic xpi project, on a certain SharePoint resource an "Error 1350: SharePoint Call error : com.magicsoftware.ibolt.sharepointonline.IBSharePointException: getListItems (Exception): The server sent HTTP status code 429: null" was thrown.
147989	The SharePoint connector could not update the Null values when used with the SharePoint Update operation.
147993	After upgrading the Magic xpi installation to 4.7, the Magic.ini file got corrupted.
148018	The Cut menu item added to the standard toolbar, using the Add or Remove Buttons menu, was not restored after re-opening the Studio
148111	The JMS trigger failed to retain Publish_and_Subscribe as a Message Model value and reverted the value to Point_to_Point, when the trigger was reopened.
148231	After migrating a project from 4.1 to 4.7, the mapping was lost when the INSERT statement on the destination pane of a Data Mapper was refreshed.

QCR #	Description
148235	After upgrading the Magic xpi installation to 4.7, the “NoClassDefFoundError” error was thrown by the Connector Builder on creating a new connector, which can be fixed by adding the helpers.jar to the Classpath section of the Magic.ini file.
148244	The WCF connector failed to set the String value for a complex type of element in case of a specific WSDL structure.
148252	The Systinet Server failed to start or stop through the BAT files due to the incorrect service name.
148257	If the data sent to the Update operation of the Sugar connector contained multiple consecutive TAB characters, then they were not escaped resulting in an error response from the Sugar server.
148278	After migrating a project from Magic xpi 4.1 to 4.7 the Data Mapper failed to recognize some of the data types in the XSD and displayed the fields as INVALID_S.
148305	After migrating a project from Magic xpi 4.6 to 4.7, the build failed without giving any warning message when the Data Mapper was referring to a certain schema file.
148327	In some cases, the checker returned an error “Illegal node definition”, when the Data Mapper had calculated values through expressions.
148409	After upgrading a project from Magic xpi 4.6 to 4.7, the XML Position Forwarding functionality used in the Data Mapper step did not work.

QCR #	Description
148419	When Dynamic SQL was used in the Destination pane of the Data Mapper, the Calculated Value Expression was invalidated and Name node in the Source pane was replaced with the question marks, on reopening the Mapper screen.
148654	When a project was migrated from Magic xpi 4.6 to 4.7, the resource definition for an add-on connector was missing.
148655	The Dynamics CRM Resource failed to validate and returned an invalid SOAP fault when the password contained the “%” character.
148724	The database credentials were requested at the installation time even though the user skipped the installation of the internal database.
148727	After migrating a project from Magic xpi 4.1 to Magic xpi 4.7, the logical names with a blank value were missing from the IFS.ini file.
148734	Inconsistent XML output was generated from the flow when two flows were running concurrently in different engines.
148847	If German Visual Studio 2010 Isolated Shell was installed on the machine, the Studio failed to configure the OData Service.
148853	The Sharepoint connector failed to check-in the uploaded document and displayed an error “ERROR: addLibraryItems (Exception): Exception of type 'Microsoft.SharePoint.SoapServer.SoapServerException’”.

QCR #	Description
148878	The Create Calendar Event method of the Google Calendar component failed to run when Extended Properties were added to the calendar event.
148963	The OData connector did not have provision to set the credentials while using HTTP over SSL (HTTPS) and failed to get authenticated using the NTLM authentication as well.
149048	In the Data Mapper, the name of the node was displayed incorrectly for a particular Schema XSD file.
149068	An XML attribute for a specific XSD file, was not listed in the Data Mapper when using the Magic xpi 4.6 studio with a new project.
149080	In the Data Mapper, the data types for few elements were displayed as INVALID for a particular Schema XSD file.
149088	After migrating a project from Magic xpi 4.1 to 4.7, the end tag of the blob output of the xml message was shown incorrectly for a particular XML file.
149215	An error was thrown when a particular schema in the Data Mapper's Source or Destination pane had an element with a numeric type field containing a precise part.
149304	The SharePoint resource failed to validate giving an error, "Connection to the requested Sharepoint could not be established.createSessiononline" when the password had a special character in it.

QCR #	Description
149430	In the Magic xpi 4.6 Monitor, when a flow in a given project Flow List was disabled or enabled, the Flows List for other projects was displayed as empty.
149579	After migrating a project from Magic xpi 4.1 to 4.7, the checker gave new warning messages.
149710	The FTP component failed to authenticate at runtime when the resource had username greater than 30 characters.
149828	When the internal database was of type MSSQL or Oracle, and the Activity Logs had more than a million entries, then the Magic Monitor displayed older records instead of the latest records.
149829	The context variable C.sys.InvokingBPName displayed a wrong value in a specific scenario involving a Logic Flow call.
150390	The Magic xpi server randomly crashed and restarted creating the dump files in the runtime folder.
150599	For the negative values, the prefix "N" was missing from the picture mappings for the XML file generated by the Bulk Operation of the Salesforce component.
150686	The Modify and Delete Event Operations of the Google Calendar component displayed an error when the event ID size exceeded the given limit.
150720	In some cases, the project threw "Memory shortage error" due to Magic info local cache.
150733	When working with the XML interface of the File Management component, an error was thrown on giving the XSD file present in the project directory.

QCR #	Description
150738	The Patch or Put methods in the OData update operation returned "org.apache.olingo.client.api.communication.ODataClientErrorException: (404) Not Found [HTTP/1.1 404 Not Found]" error on setting the data GUID.
150752	The project failed to generate the documentation and threw an error in the studio logs for a specific project in Magic xpi.
150833	The Magic xpi engine triggered a recovery process on the first time it failed to connect to the space giving an error, "[Gigaspace] remote space not found/EntryNotInSpace, server is terminated".
150879	"[Gigaspace] remote space not found/EntryNotInSpace, server is terminated" error was thrown randomly at runtime, for a certain project.
150919	In a Destination node of the Data Mapper, a condition expression could not be validated and threw 'Illegal node definition' error.
150970	When a flow was configured with multiple parallel steps, the Checker gave a warning message, "Parallel threads with no Wait for Completion step may cause integrity problems during recovery".
150977	For some Web Service calls, the execution of the WCF Client connector step exhibited slow performance.
151056	The flow level DB transaction failed to work with the ODBC data source and threw an "ODBC Gateway: a driver is not supported by a gateway" error.

QCR #	Description
151071	The WCF Client failed to consume a particular web service and threw Error 1251: WCFClient call error: Type 'System.Xml.XmlElement' with data contract name 'XmlElement:http://schemas.datacontract.org/2004/07/System.Xml'
151073	A project went in an infinite loop when the Data Mapper was using the call flow which internally used the XML Position Forwarding.
151105	The Data Mapper skipped data when the file used in the source was generated from the Salesforce connector by using the Bulk Retrieve Query Results.
151132	An 'Out of memory' error was thrown when a huge amount of data was retrieved using the Bulk Retrieve Query Results method of the Salesforce Connector.
151281	The SFTP Resource failed to validate when configured with the public key and private key files.
151373	After starting the project, the result from the Salesforce Trigger was duplicated when the SFDC_Trigger.xml was configured with the same date in the <latestDateCovered> tag.
151653	In some cases Project failed to build when inserting a condition on one of the parent nodes.
151658	For a particular case, when Enumeration data type was used in the Post Operation, the OData Consumer failed with an error, "Incompatible type kinds were found".

QCR #	Description
151669	When the Create operation in the Salesforce connector was used, the returned XML was invalid.
151707	The Data Mapper skipped data when the file used in the source was generated from the Salesforce connector by using the Bulk Retrieve Query Results.
151721	In the Data Mapper component, when an empty result from SQL is mapped to the XML in the destination pane, an incomplete UserXML is generated. To fix the defect, the user needs to add the User Environment Variable named as IncludeEmptyRootElement and set the value as Y. In case of the existing projects, the projects need to be rebuilt.
151831	The Magic xpi Runtime failed to establish the database connection after the database connection was lost and the database was restarted.
151878	The Magic xpi studio abruptly terminated when any Flow Variable was deleted from the project.
151994	The SAP R3 component failed to commit the data while creating the sales order on the SAP server.
152192	For the particular XML and XSD Schema files, XML forwarding failed causing the flow to crash.
152248	The checker returned wrong information when the value in the resource field contained data along with the environment variable.
152299	The SharePoint resource in Magic xpi projects failed to connect to the SharePoint Online.

QCR #	Description
152316	The Delete method of the OData resource failed to populate the required header information for the request.
152319	The studio displayed an error message "Exception has been thrown by the target of an invocation" and crashed when the value of a Numeric Type of parameter was set to space and the resource for few connectors like SAP R3, SAP A1, JD Edwards EnterpriseOne, were validated twice.
152350	The Data Mapper failed to parse a Template File when the "MGREPEAT" tag was nested inside another "MGREPEAT" tag.
152373	In certain cases, the Data Mapper returned an error while loading a Template File containing tags having a name of 25 or more characters.
152638	The resultant IDoc for the SAP R3 component returned incomplete data.
152652	The OData connector returned "Null Pointer Exception" error, when the OData site had fields with Null value.
152681	When the DeleteFromSource property in the SharePoint connector was set to True, the file was displayed in both the panes even after moving it from the Source pane to the Destination pane using the Move operation.
152697	When a new argument was inserted between the two existing arguments, the project with an HTTP trigger failed to run and threw "Abnormal termination with exit code [128]" error.



QCR #	Description
152708	When the Data Mapper destination was defined as the Positional Flat File and the last field in the source had no value, then the field was not created in the resultant Flat File.
152715	The C.sys.LastErrorCode and C.sys.LastErrorDescription variables were not updated correctly when the Error Flow was executed at runtime for the Data Mapper component having the DataBase schema in its destination pane.
152735	The CallPublic function failed to return numeric value with Magic xpa.ecf file.
152769	While creating a cross reference on any variable, for the given project, an error "A resource name was not selected. If you are using a dynamic resource, a default resource should be defined" was thrown.
152771	An error was thrown when the relative path to the JSON schema in the destination pane of the Data Mapper was given.
152813	When the DeleteFromSource property in the SharePoint connector was set to True, the file was displayed in both the panes even after moving it from the Source pane to the Destination pane using the Move operation.
152908	On using the XML Position Forwarding functionality of the Data Mapper, the project threw the ERR-THREAD-ABORTED (-139), Program: "Main Program" error.
152965	The POST method of the OData connector did not receive the response body sent by the OData service.

QCR #	Description
153047	For Japanese locale, the list of the libraries that exists in the user's DB2/400 Database resource was not displayed and manual entry was not possible.
153092	For a particular Web Service call, the execution of the WCF Client connector step exhibited slow performance.
153178	For the SQL Query with join subquery in the Data Mapper, if arguments were specified as variable, then "Error 9805: No value given for one or more required parameters" error was thrown.
153264	When trying to retrieve the Module List for the Sugar CRM step configuration, an error was thrown when the Logical Name was identical to the User Name.
153406	While working with Magic xpi studio, the Visual Studio threw a random error and required a Studio restart.
153421	When working with the Dynamic CRM resource on Japanese URL, the Organizations List could not be retrieved.
153666	The email message, of type HTML, did not retain the UTF-8 encoding when it was sent through the Email component.
153703	When working with AS400 on Japanese locale, the Data Mapper Wizard did not display the columns of the tables which were not selected at the resource level, for the database connection.
153896	When the Database Resource was configured with the CData ODBC Driver, the data source failed to validate.
153897	When the Database Resource was configured with the CData ODBC Driver, the data source failed to validate.

QCR #	Description
154022	The "mgxpi-sapr3.jar not found" error was seen in the "MagicXpi.Log" file, though the SAP R3 step or trigger was successfully executed.
154946	While loading the SharePoint Web Service through the WCF Client resource, the service went into an infinite loop.
155142	When using one of the operations of the WCF Client connector, the service failed to load successfully and threw an error, "Collection type 'System.Xml.XmlNode' cannot be deserialized since it does not have a valid Add method with parameter of type 'System.Object'."
155317	When the OData connector was configured with Dynamics 365 Finance and Resource Operations, the "failed to loadODataResources. org.apache.olingo.client.api.http.HttpClientException: java.net.SocketException: Connection reset" error was thrown at the runtime.
155351	When RFCs contained the backslash ('\') character, the SAP R/3 connector threw an error, "Error 1103: SAP R/3 connector error return: com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBSapR3Exception: TABLE_NOT_AVAILABLE at com.magicsoftware.ibolt.sapr3.IBSapR3.executeFunction(IBSapR3.java:56 7)".
155763	The Command Line method of the File Management component always gave Error 207 "Failed to execute the command line" even after successful execution of the script file.

QCR #	Description
156369	The Magic xpi project with an HTTP trigger was getting restarted if the Timeout policy was set to Abort and a Timeout value was set for the flow.
156370	The same single file was incorrectly processed twice or multiple times which resulted in the insertion of duplicate records in the database.
156372	After the sleeping Java threads were killed by the managing thread, the whole server crashed.
156608	When an Alpha variable used in the expression, was initialized to an empty string, it was treated as null.

Magic xpi 4.9 で使用可能なアダプタ

アダプタ/コネクタ/ユーティリティ	標準装備	別売
ユーティリティ		
.Net Utility	○	
BAM ユーティリティ	○	
Flow Data	○	
Java クラスコネクタ	○	
Magic xpa	○	
NOP	○	
PSS サブスクライブ	○	
PSS パブリッシュ	○	
PSS 削除	○	
Web Service	○	
アボートフロー	○	
アンロック リソース	○	
イベントを待つ	○	
イベント発行	○	
スケジュールフロー	○	
データマッパー	○	
フロー呼出	○	
フロー有効	○	
メッセージ保存	○	
リフレッシュ コンバージョン	○	
ロック リソース	○	



検証	○	
遅延	○	
遅延フロー呼出し	○	
トリガー		
Directory Scanner	○	
Email	○	
Exchange	○	
HL7(日本ではサポート対象外)	○	
HTTP	○	
IBM i	○	
JMS	○	
MSMQ	○	
OData	○	
Salesforce		○
SAP A1		○
SAP R/3		○
SAPB1 2004		○
SAPB1 2005		○
SAPB1 2007		○
SAPB1 8.8		○
ServiceMax		○
Sugar		○
TCP Listener	○	
Web Service	○	
WebSphere MQ	○	

スケジューラ ユーティリティ	○	
MQTT	○	
コンバータ		
HL7(日本ではサポート対象外)	○	
XSLT	○	
ファイル管理		
Directory Scanner	○	
Microsoft Excel	○	
Microsoft Word	○	
XML Handling	○	
ファイルアーカイブ	○	
ファイル管理	○	
ファイル分割	○	
暗号化	○	
コネクタ		
.NET Utility	○	
Dynamics AX 2012		○
Dynamics CRM		○
Exchange	○	
Google カレンダー	○	
Google ドライブ	○	
IBM i	○	
JD Edwards Enterprise One		○
JD Edwards World		○
LDAP	○	



NotesDB	○	
Salesforce		○
SAP A1		○
SAP R/3		○
SAPB1 2004		○
SAPB1 2005		○
SAPB1 2007		○
SAPB1 8.8		○
ServiceMax		○
SharePoint		○
Sugar		○
WCF Client	○	
通信		
FTP	○	
HTTP	○	
TCP Listener	○	
メール		
DOMINO	○	
Email	○	
Connectors		
MQTT	○	
OData	○	
REST Client	○	
メッセージング		
JMS	○	

MSMQ	<input type="radio"/>	
WebSphere MQ	<input type="radio"/>	



Magic Software Enterprises について

Magic Software Enterprises (NASDAQ: MGIC) empowers customers and partners around the globe with smarter technology that provides a multi-channel user experience of enterprise logic and data.

We draw on 30 years of experience, millions of installations worldwide, and strategic alliances with global IT leaders, including IBM, Microsoft, Oracle, Salesforce.com, and SAP, to enable our customers to seamlessly adopt new technologies and maximize business opportunities.

For more information, visit www.magicsoftware.com.



OUTPERFORM THE FUTURE™

Magic Software Enterprises Ltd provides the information in this document as is and without any warranties, including merchantability and fitness for a particular purpose. In no event will Magic Software Enterprises Ltd be liable for any loss of profit, business, use, or data or for indirect, special, incidental or consequential damages of any kind whether based in contract, negligence, or other tort. Magic Software Enterprises Ltd may make changes to this document and the product information at any time without notice and without obligation to update the materials contained in this document.

Magic is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Copyright © Magic Software Enterprises, 2019



OUTPERFORM THE FUTURE™